

令和3年2月24日
令和2年度磯焼け対策全国協議会

事例紹介

兵庫県の 藻場・干潟ビジョン

兵庫県

農政環境部 農林水産局

水産課 漁場整備班



兵庫県の藻場・干潟ビジョン

兵庫県 瀬戸内海海域・日本海海域 藻場・干潟ビジョン

令和2年3月策定

発表内容

- 海域区分

日本海と瀬戸内海

- 日本海海域 藻場ビジョン

- 瀬戸内海海域

藻場・干潟ビジョン

- 藻場・干潟ビジョンの
策定にあたって

兵庫県

瀬戸内海海域・日本海海域

藻場・干潟ビジョン



令和2年3月

海域区分（日本海海域と瀬戸内海海域）

• 日本海海域

自然海岸・急峻な磯

藻場：ガラモ場が主

干潟：なし

• 瀬戸内海海域

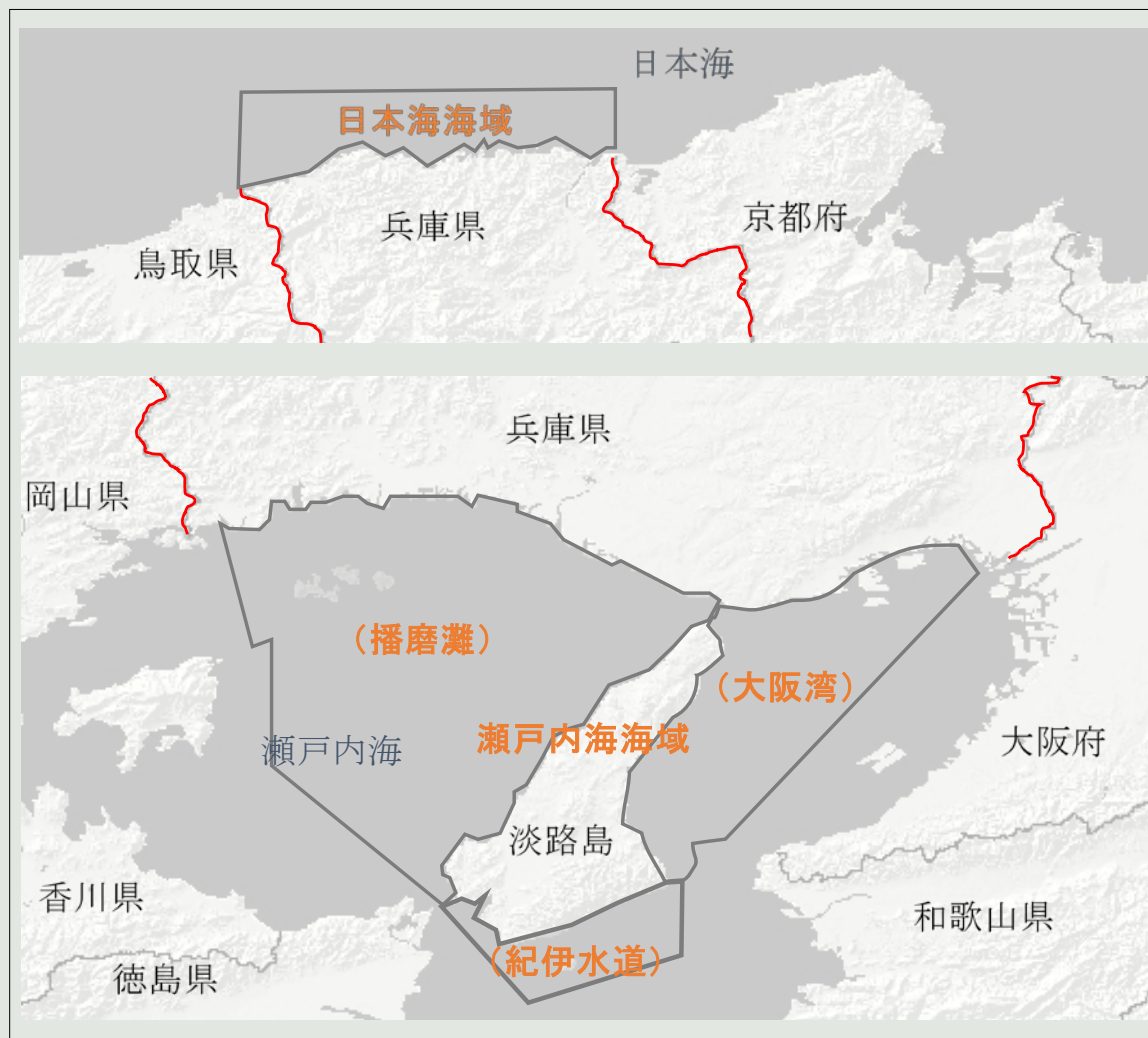
人工海岸・埋め立て

栄養塩濃度の低下

藻場：カジメ場が主
が𦍋場・アヲ𦍋場

干潟：わずかに残存

浅場：水深10m以浅



日本海海域 藻場ビジョン（経年変化と目標）

・藻場面積

数値は減少 → 調査手法の差
漁業者からの聞き取り → 大きな変化なし

〈長期目標〉
現状維持

海域	調査年	藻場面積 (ha)				
		アrame・ ガジメ場	ガラモ場	アマモ場	その他	合計
日本海	平成2年 ※1	17.7	519.4	0.0	13.6	550.6
	現状：平成28年 ※2	16.1	415.8	5.3	0.6	437.8

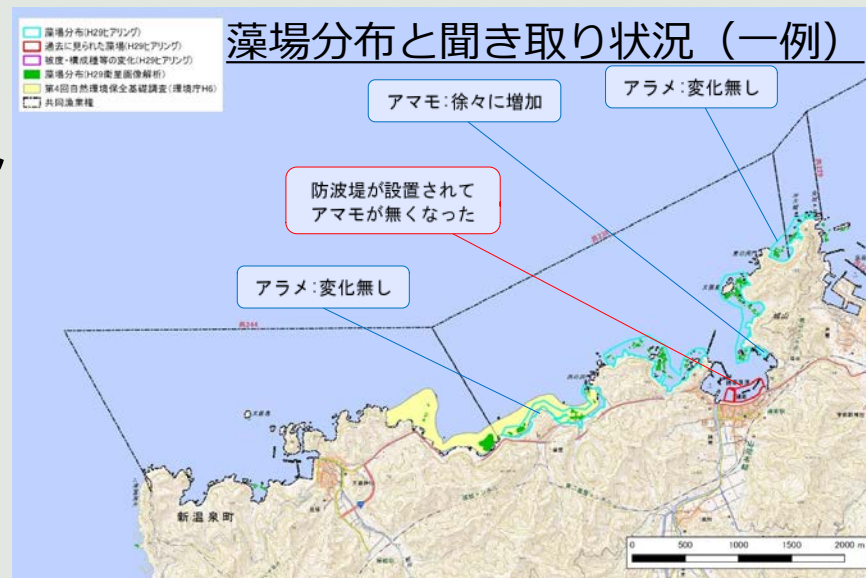
※1：ヒアリング調査＋現地調査 ※2：衛星画像解析＋現地調査

・海域環境

水温、透明度、塩分 → 変化なし

・食害生物

アイゴ、メジナ、ウニ、アメフラシ
→ 磯焼けに至らず



日本海海域 藻場ビジョン（保全及び創造対策）

水産有用種の増殖を目的とした、藻場の保全・創造対策の効率的な手法及び場の検討

物理環境調査

藻場増減状況調査

生物環境調査

- ・ 資源量増大を図る水産有用種の選定
- ・ それらの増大に資する藻場の選定

《藻場保全・創造対策を検討する海域設定》

藻場を保全する海域

- ① 再生産に寄与する藻場
- ② 水産利用されている藻場

藻場の創造対策を検討・実施する海域

- ① 水産利用が期待
- ② 藻場が衰退（衰退要因解消により藻場再生可能）
- ③ 藻場維持のメンテナンスが容易
- ④ 将来の水温上昇（食害活性増加）への耐性

A. 日本海海域全域

保全手法

- ・ モニタリング

B-1. 津居山地区 ガラモ場を対象

B-2. 香住地区 ガラモ場、アマモ場を対象

B-3. 浜坂地区 アラメ・カジメ場、アマモ場を対象

保全・創造手法

- ・ 増殖礁（基質）設置

マダイをはじめ、藻場を利用する水産有用資源の増大

瀬戸内海海域 藻場・干潟ビジョン（経年変化）

藻場面積

透明度：上昇

数値：減少

調査手法の差
漁業者からの聞き取り
藻場衰退

海域	調査年	藻場面積（ha）						
		アラメ・カジメ場	ガラモ場	アマモ場	テングサ場	カメ場	その他	合計
瀬戸内海	平成2年 ※1	593.7	89.0	127.7	15.4	234.5	160.6	1220.8
	現状：平成25-27年 ※2	422.0	93.5	77.8	41.9	74.2	126.4	835.8

※1：ヒアリング調査＋現地調査 ※2：衛星画像解析＋現地調査

干潟面積

数値：増加？

調査手法の差
二枚貝、エビなどの漁獲低迷
浅場含め生産力低下

海域	調査年	干潟面積（ha）					
		前浜	河口	潟湖	人工干	その他	合計
瀬戸内海	平成2年 ※1	51	5	0	0	0	56
	現状：平成27年 ※2	タイプ分けされていないため内訳は不詳					98.5

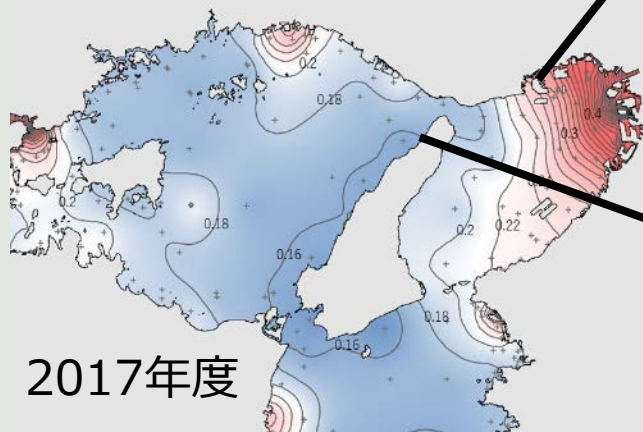
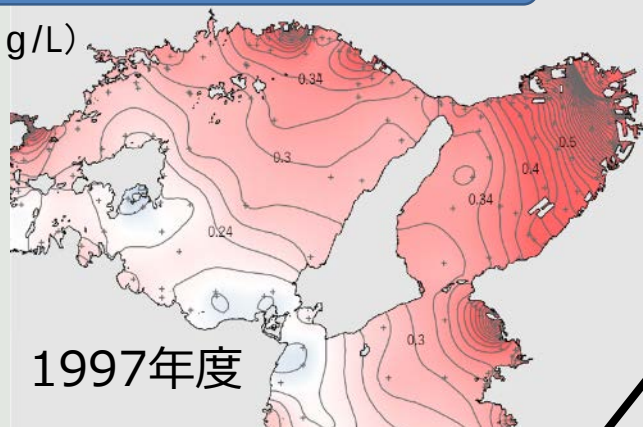
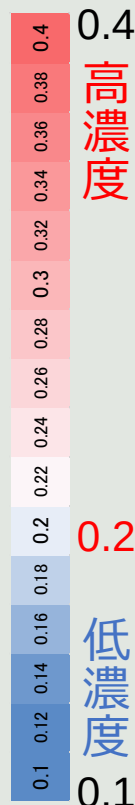
※1：ヒアリング調査＋現地調査 ※2：衛星画像解析＋現地調査

瀬戸内海海域 藻場・干潟ビジョン（変化要因）

・栄養塩不足（特に窒素）

0.2mg/Lを下回る → 生物生産：低

全窒素(mg/L)



高栄養海域



試験10日後(左)と4ヶ月後(右)の付着板

試験2ヶ月後のアサリ

貧栄養海域



〔出典〕瀬戸内海の生態系維持に必要な水質（栄養量）（京都大学名誉教授 藤原建紀）：令和元年11月14日開催 瀬戸内海環境保全セミナー発表資料

・その他

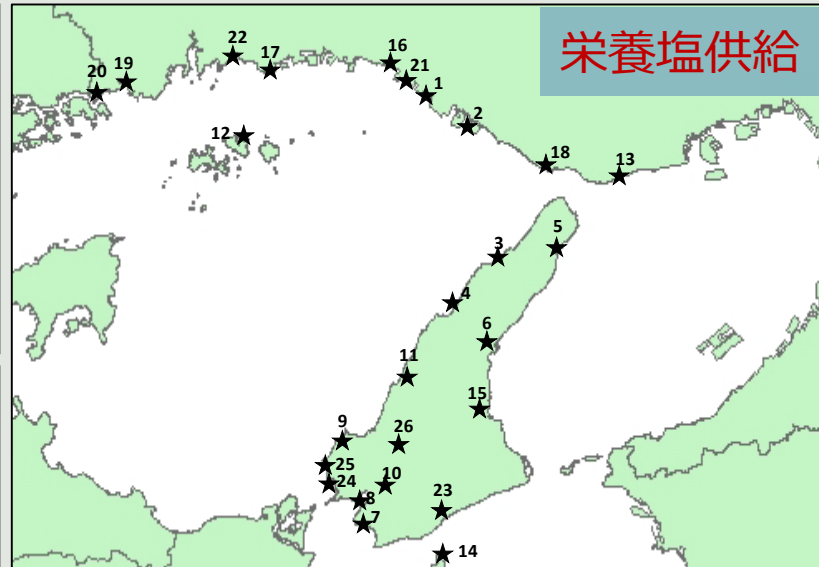
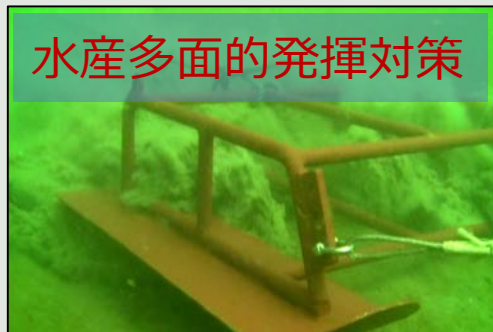
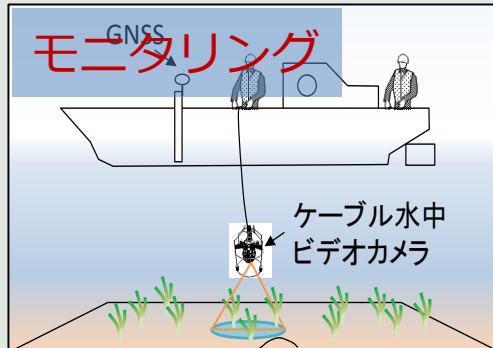
底質悪化（基質・土砂供給減、硬化） 水温上昇（摂餌活性増）

瀬戸内海海域 藻場・干潟ビジョン（目標と対策）

〈目標〉

- 栄養塩類の濃度改善（長期目標）
全窒素 0.2mg/L以上、全リン 0.02mg/L以上
- 現状維持（当面の目標）
藻場面積 約850ha、干潟・浅場の生産力

〈対策〉



栄養塩管理運転を実施している
下水処理施設★（2020年3月現在）

瀬戸内海海域 藻場・干潟ビジョン（藻場の保全・創造）

水産有用種の増殖を目的とした、藻場の保全・創造対策の効率的な手法及び場の検討

物理環境調査

藻場増減状況調査

生物環境調査

- ・ 資源量増大を図る水産有用種の選定
- ・ それらの増大に資する藻場の選定

《藻場保全・創造対策を検討する海域設定》

藻場を保全する海域

- ① 再生産に寄与する藻場
- ② 水産利用されている藻場

藻場の創造対策を検討・実施する海域

- ① 水産利用が期待
- ② 藻場が衰退（衰退要因解消により藻場再生可能）
- ③ 藻場維持のメンテナンスが容易
- ④ 水温上昇（近年の摂食活性増加、将来の食害活性増加）への耐性

A. 瀬戸内海海域全域

保全手法

・ モニタリング

B-1. 大阪湾（岩屋、洲本、成ヶ島）

ガラモ場、カジメ場を対象

B-2. 播磨灘（明石、淡路、西部）

アマモ場、ガラモ場を対象

B-3. 紀伊水道（福良、阿万、灘、由良）

アマモ場、カジメ場を対象

保全・創造手法

・ 海底耕耘 ・ 食害対策 ・ 増殖礁（基質）設置

メバル類・キジハタ・マダイをはじめ、藻場を利用する水産有用資源の増大

藻場・干潟ビジョン策定にあたって（課題等）

・現状調査

予算確保

調査項目の設定

結果のとりまとめ

} 専門的知識

・ビジョンの策定

過去との比較

海域ごとの課題整理

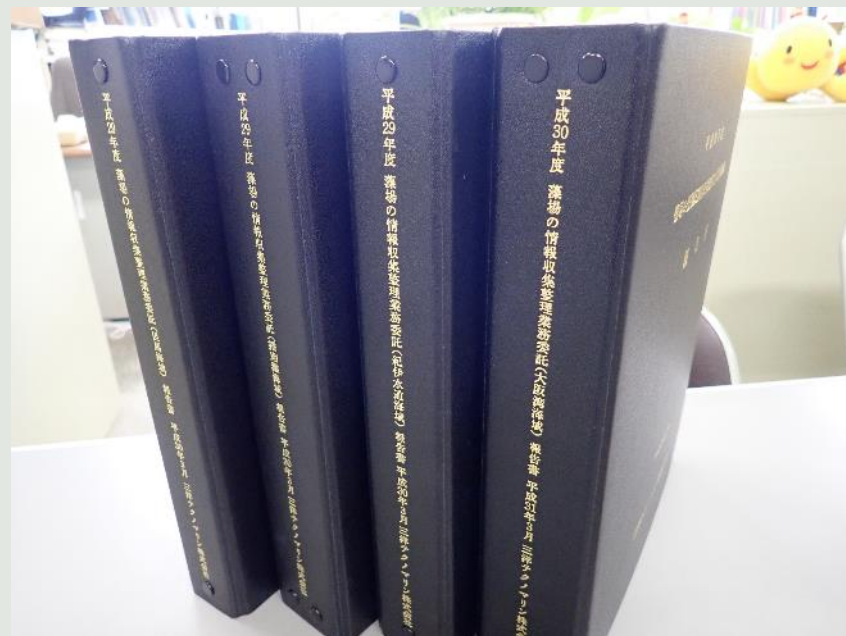
関係部署との調整

栄養塩環境の改善＝水産＋環境＋下水道

・ビジョンに基づく取組

定期的なモニタリング（予算、手法、評価）

フォローアップ



ご視聴いただき ありがとうございました

第41回 全国豊かな海づくり大会 —兵庫大会—

令和4年秋 明石市にて開催

〈基本方針〉

- ・「豊かで美しいひょうごの海」の創出と継承
- ・ 力強い水産業の確立と地域の活性化
- ・ 「豊かで多彩なひょうごの魅力」の発信

大会HP <https://hyogo-yutakanaumi.com/>

